

# 田無神社 龍神池 調査・管理報告書

活動日	2022年8月5日	天候	曇り	活動時間	9:30～12:30
作業者	山下 洋平、齋田 滉大			報告者	山下 洋平
目的	生物調査 および ビオトープ管理				
内容					
<b>【作業内容】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・龍神池の写真撮影</li><li>・生物調査</li><li>・外来種の駆除</li><li>・植物の剪定</li><li>・藻の除去</li></ul>					
<b>【生物調査の詳細】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビオトープ創出時に導入した生物も含め、生息・生育状況の調査を実施した。</li><li>・5月調査時に多摩川水系(野川)から在来種のモツゴを捕獲し、12匹(雌雄各6匹)を池内に放流した。今回の調査時に多数の稚魚が確認されたため、池内で繁殖していることわかった。</li><li>・クロイトトンボとトウキョウダルマガエル、トウキョウヒメハンミョウを確認した。</li><li>・深場でトンボ科のヤゴ(若齢幼虫)を確認した。</li><li>・天日干し後に戻したヒルムシロ属sp.が成長していた。</li><li>・浅瀬にて絶滅危惧種シャジクモ(東京都レッドリスト2020: VU)を多数確認した。</li><li>・流れ込みの石で吸水しているニホンミツバチを確認した。</li><li>・池周縁部に外来種のメリケンガヤツリを確認したため適時除草をおこなった。</li><li>・池内のボウフラは減少しており、モツゴの捕食圧により発生を抑えられていると思われる。</li></ul>					
<b>【ビオトープの管理作業】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・池脇のコムラサキの剪定</li><li>・アオミドロの除去</li><li>・土壌耕耘</li></ul>					
<b>【その他】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・池の脇に設置していた看板がリニューアルされていた。</li></ul>					

	<p>No. <u>1</u></p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・調査前の様子。</p>
	<p>No. <u>2</u></p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・調査前の様子。</p>
	<p>No. <u>3</u></p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・調査前の様子。</p>

	<p>No. <u>4</u></p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・調査後の様子。</p>
	<p>No. <u>5</u></p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・調査後の様子。</p>
	<p>No. <u>6</u></p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・調査後の様子。</p>



No. 7

撮影日:2022/8/5

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・調査の様子



No. 8

撮影日:2022/8/5

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・トンボ科の若齢幼虫を2個体確認した。



No. 9

撮影日:2022/8/5

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

**【クロイトンボ】**

幼虫期間:1年程度(1年多世代)

幼虫越冬

成虫出現期:5月～9月

**生息環境**

平地～丘陵地の、周囲に樹林のある池沼。沈水植物の繁茂する環境を好む。

	<p>No. 10</p> <p>撮影日: 2022/8/5</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説          ・水面に多数のホルバートケシカタビ          ラアメンボを確認した。</p>
	<p>No. 11</p> <p>撮影日: 2022/8/5</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説          ・浅瀬でシャジクモが繁茂していた。</p>
	<p>No. 12</p> <p>撮影日: 2022/8/5</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説          ・深場ではヒルムシロ属sp.が繁茂して          いた。</p>

	<p>No. 13</p> <p>撮影日: 2022/8/5</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説  池の脇に植栽されたコムラサキの葉上にトウキョウヒメハンミョウを確認した。</p>
	<p>No. 14</p> <p>撮影日: 2022/8/5</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説  浅瀬にてトウキョウダルマガエルを1個体確認した。</p>
	<p>No. 15</p> <p>撮影日: 2022/8/5</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説  5月の調査時に放流したモツゴが繁殖していた。稚魚は100匹ほど生息していると思われる。</p>

	<p>No. 16</p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・流れ込み部分で吸水するニホンミツバチを確認した。</p>
	<p>No. 17</p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・浅瀬にてコナギを数株確認した。</p>
	<p>No. 18</p> <p>撮影日:2022/8/5</p> <p>撮影場所:田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・水面に落ちた幼虫をコセアカアメンボが群がり捕食していた。</p>



No. 19

撮影日:2022/8/5

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・池周縁部にて確認した外来種のメリケンガヤツリ。外来種であるため除草を行った。



No. 20

撮影日:2022/8/5

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・リニューアルした看板。透明になり、内容も一新された。



No. 21

撮影日:2022/8/5

撮影場所:田無神社 龍神池

解説

・かいぼり後、池の泥を撒いた場所にオオイヌタデが繁茂していた。周囲には確認されなかったことから埋土種子として泥の中に残っていたと思われる。

田無神社 龍神池 確認生物リスト

分類	種名	レア度 ※別表1	経緯 ※別表2	希少性 ※別表3		外来種	備考	確認記録 ※注				
				環境省	東京都 北多摩			2019年度	2020年度	2021年度	2022年 5/11	2022年 8/5
両生類	トウキョウダルマガエル	SR	導入	NT	GR		成体を1個体確認した。	○	○			○
	ヤマアカガエル	SR	放流		EN				○			
	アカガエル類	-	放流							○		
	ヒキガエル類の幼生	-	放流							○	○	
	ニホンアマガエル	SR	導入			VU		○				
爬虫類	ヒバカリ	SR	自然		VU					△		
魚類	ミナミメダカ	SR	導入	VU	CR+EN			○	○	-		
	品種メダカ	外	遺棄・放流			○				○		
	モツゴ	A	導入								導入	○
貝類	ヒメタニシ	A	導入					○	○	○	○	○
	イシマキガイ	A	非意図的導入					○				
	サカマキガイ	外	非意図的導入			○	流れ込みで数個体確認。駆除を行った。	○	○	○	○	○
昆虫類	コセアカアメンボ	A	自然飛来				成体を多数確認した。	○	○	○	○	○
	ヒメアメンボ	A	自然飛来						○			
	ホルバートケシカタピロアメンボ	A	自然飛来				成体を多数確認した。		○			○
	シロジュウシホシテントウ	B	自然飛来						○			
	ナミテントウ	B	自然飛来						○			
	マメコガネ	B	自然飛来						○			
	ニホンミツバチ	A	自然飛来					○	○			○
	ヒメスズメバチ	A	自然飛来							○		
	ハムシドロバチの一種	B	自然飛来									○
	クロスジギンヤンマ	A	自然飛来					○	○	○	○	
	ハグロトンボ	A	非意図的導入					○				
	クロイトトンボ	A	自然飛来				オスを1個体確認。	○	○	○	○	○
	イトトンボ科の幼虫	A	自然飛来							○		
	オオシオカラトンボ	A	自然飛来				1個体の抜け殻を確認。	○	○	○		○
	シオカラトンボ	A	自然飛来				1個体の抜け殻を確認。		○	○	○	○
	トンボ科の幼虫	A	自然飛来				若齢幼虫を2個体確認。		○	○	○	○
	イチモンジセセリ	A	自然飛来							○		
	ホソヒラタアブ	B	自然飛来						○			
	トウキョウヒメハンミョウ	A	自然飛来				コムラサキの葉の上で1個体確認した。					○
	コカゲロウ属の一種	B	自然飛来				深場にて1個体の幼虫を確認した。		○			○
	ユスリカ科の一種	B	自然飛来						○	○	○	○
ヒトスジシマカ	B	自然飛来					○	○	○	○	○	
その他動物	イシビル科の一種	B	非意図的導入				浅瀬で数個体を確認した。		○	○		○
植物	メリケンガヤツリ	外	非意図的導入			○	池周縁部で数株確認。適時除草を行った。			○		○
	セキショウ	A	導入					○	○	○	○	○
	コナギ	A	導入				浅瀬(田んぼ側)で数株確認した。	○		○		○
	ヒルムシロ属の一種	SR or R	導入				池全体で多数確認した。	○	○	○	○	○
	ウキヤガラ	SR or R	導入		VU			○	○			
	ミゾソバ	A	導入				池の脇に数株確認できた。	○	○	○	○	○
	アゼナ	A	土壌由来					○				
	ウキクサ	B	土壌由来				浅瀬(田んぼ側)で多数確認した。	○	○	○		○
	シャジクモ	SR	発芽	VU	VU(本土部)		浅瀬で多数確認した。	○	○	○	○	○
	ヘビイチゴ	B	土壌由来				花を確認した。		○	○	○	○
	ダンドボロギク	外	自然飛来			○	池周縁部に数株確認。適時除草した。			○		○
	アメリカタカサブロウ	外	土壌由来			○		○	○	○		
	オオカナダモ	外	遺棄・放流			○		○				

※確認記録 ○:調査で確認、△:聞き取り等で確認

別表1 レア度について

カテゴリ	表記	基準	一例
スーパーレア	SR	環境省または東京都のレッドリストVU以上	オオタカ、フクロウ、ニホンカナヘビ、アズマヒキガエル
レア	R	環境省または東京都のレッドリストNT、DD、留意種など	ニホンアナグマ、アオダイショウ、ヤマトタマムシ
良	A	武蔵野台地らしさ。雑木林や用水、田畑、湿地等に特化して生息するもの。レアではないがいてほしい生きもの。	ヒメタニシ、アオモンイトトンボ、カブトムシ
普通	B	普通種。都市や道ばたなどでも見られる生きもの。	オンバツタ、キタキチョウ、ヒトスジシマカ、スズメ、ハクセキレイ
外来種	外	外来種	ガビチョウ、アメリカザリガニ、アカボシゴマダラ

別表2 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
発芽	ビオトープに導入した土壌から種子が発芽したもの
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの

別表3 希少性の表記について

表記	カテゴリ名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの